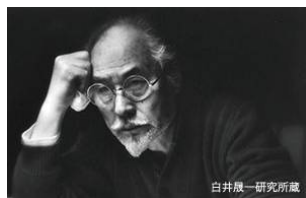


# 渋谷区立松濤美術館 建築ツアー

## 白井晟一の設計した美術館建築を自由にまわってみよう編



白井晟一（しらい・せいいち 1905—1983）

京都に生まれる。京都高等工芸学校（現在の京都工芸繊維大学）図案科で学んだ後、ドイツに渡り、ハイデルベルク大学及びベルリン大学において哲学を学ぶ。帰国後、義兄の画家・近藤浩一路の自宅（1935—36）の設計を手がけたことを契機に、建築家としての道を歩んだ異色の建築家。長崎の親和銀行本店、東京のノア・ビル等の設計を手がけ、日本建築学会賞、毎日芸術賞、日本芸術院賞など数々の賞を受賞した。渋谷区立松濤美術館（1978—80）は、その最晩年の代表作。

### スタート！ 美術館正面



1981年に区立美術館としては2番目(1番目は板橋区)にオープンした松濤美術館。正面は住宅地のなかの限られた敷地で前庭にゆとりをもたせるため「湾曲しながら引っ込ませる」構造がとられています。

- ★赤みをおびた石材は、白井晟一がこだわって韓国から輸入した花崗岩。みずから、「紅雲石・こううんせき」と命名。
- ★上部のライトは、あえてランダムな位置に配置されています。
- ★正面右手に水飲み場があります。  
(設計図にはなく、通常、水は止められています)



### 1階 エントランス



★入ったらすぐ、上を見上げてみてください。薄く切ったオニキスの石材をガラスに挟んだ光り天井、裏側に蛍光灯が仕込んであります。

### 1階 ブリッジへ



★晴天の場合は、ブリッジに出ることができます。(雨天の場合は閉鎖されています)  
★美術館の中心には、このように4階層をつらぬく形で窓に囲まれた吹き抜けがあり、底には噴水があります。市街地で外部に窓をつけることに配慮が必要だったため、光を建物構造本体にとりこむ工夫でした。



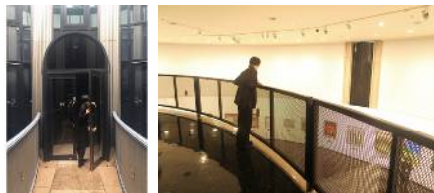
★上空には楕円形の空が見えます。  
★ブリッジ途中にあるエンブレムも白井のデザインです。



### 1階



回廊へ



※回廊のむかつて左に扉があり1階のロビーに通じています。  
※ロビーからも回廊へ入ることができます。

- ★ブリッジ奥の扉は普段は閉鎖されていますが、現在は3月15日(日)まで特別に開放されています。この扉は、じつはB1展示室を見下ろすことのできる回廊へと繋がっているのです。(回廊からの写真撮影はお控えください)
- ★白井は当初、奥の扉の先に踊り場と階段をもうけ、直接展示室に降りられるようにする案をもっていました。最終的に現在のような回廊に変更されました。

### B1階

#### 第1展示室(主陳列室)へ



★B1階の展示室の天井高は6.4m。B1階と1階を合わせ2階層分を使用。限られたスペースですが、開放感のある空間となっています。  
★楕円形の展示室は美術館としては珍しい構造。

### らせん階段



- ★移動時には4階層をつなぐらせん階段にも注目。白井は、曲線が美しく造られることに大変こだわりました。
- ★壁面照明も白井のデザイン。その好みで当初はもっと明るさを絞って暗くしてあったようです。

### 2階

#### 第2展示室(サロンミュージゼ・特別陳列室)へ



- ★第2展示室は、通称「サロンミュージゼ」と「特別陳列室」の2室からなり、2室の間は、収納式の引き戸で区切ることもできます。(普段は戸袋に収納されています)
- ★「サロンミュージゼ」の天井高は3.3m。壁はヴェネツィアンヴェルヴェット貼りで、ブラジリアンローズウッド材の梁や柱をあえて入れ、邸宅の居間のようなくつろぎの空間を演出しています。



↑ここに実は収納式扉あり

### 各階の調度



★白井自身が選り配置した、ヨーロッパ製のフレームが使われた多くの鏡、ふかふかの牛革のソファ、約40年前からそのまま使用されているドアノブの意匠など、館内の調度にもぜひご注目ください。

#### 毎週金曜日の建築ツアーについて

- ・渋谷区立松濤美術館では、通常は特別展開催中の毎週金曜日、午後6時から、館員による建築ツアーを開催しております。
- ・このツアーではB2階など、通常お入りになれない場所もご案内できますので、次のご機会に、是非ご利用ください。
- ※状況によっては中止又は延期となる可能性があります。その場合は、美術館HP (<https://shoto-museum.jp/>)、公式SNSにてお知らせいたします。